



山梨大学

教育人間科学部 幼小発達教育コース

尾見康博 (おみ やすひろ)

所在地：甲府市武田 4-4-37

<http://www.edu.yamanashi.ac.jp/>

Profile — 尾見康博

山梨大学教育人間科学部准教授。専門は社会心理学、教育心理学。著書は『好意・善意のディスコミュニケーション』（単著、アゴラブックス、電子書籍）、『心理学論の誕生』（共著、北大路書房）など。



山梨大学は便利です

「都会の喧噪はいやだけど、不便すぎるといざというとき困るしなあ」と思っているあなた、山梨大学はいかがでしょう。

東京圏に比べればずいぶんのどかな地方都市甲府にある山梨大学（略称：梨大）。念のため言っておきますが、あの駅伝で有名な、そして、ロンドン五輪でメダリストを輩出した山梨学院大とは違いますよ！「こくりつだいがく」の山梨大学ですよ！たしかに、駅伝中継で山梨学院の「学院」を省略して実況しているときもあります。また、梨大の教員たちは、「山梨大学に勤めることになりました」と言っても、「ああ、駅伝で有名な」と、あまり大学事情に詳しくない親類からのみならず、一部の大学教員や大学院生にまで言われるという経験を持っていますから、間違えられることには慣れていますけどね。

閑話休題。梨大の教員や学生にとって南アルプスの美しい山々は日々のあたりまえの風景ですし、4階にある私の研究室の窓からは富士山を眺めることもできます。このように、自然豊かでのどかという点では他の地方国立大学と大差ないといえるかもしれません。ただ、決定的に違う点が一つあります。それは、キャンパスがその地域の中心となる駅から歩ける距離に位置しているという点です。

甲府駅から歩ける。

この便利さは、とりわけ車を持っていない人にとってかなりありがたはずです。東京圏その他への移動がとて楽なのです。

また、東京圏の人たちからは「山梨は合宿先」くらいに捉えられていて、基本的に泊まりがけで行くところと思われるのではないかと思います。山梨の人たちにとって東京はじゅうぶん日帰り圏内です。甲府から新宿まで特急で約一時間半。一時間に二本程度走っています。つまり、その気になれば東京圏から梨大までかんたんに通えるのです。これも、駅から歩けるからこそといえます。都心の大学に新幹線や在来線の特急で通っている教職員や学生の話はよく聞かと思いますが、それとは上りと下りが違うだけだと考えればいいでしょう。しかも、甲府に向かうのは下りになりますから朝のラッシュとは無縁。どうですか？魅力的でしょう？（なお、便利な甲府キャンパスにあるのは教育人間科学部、工学部、生命環境学部であり、医学部は、富士山がいつでも大きく見えますが交通の便はあまりよくない中央市にあります。）

日帰りスキー・スノボが基本です

東京圏からのアクセスが便利ですが、アパートやマンションの家賃が

安いこともあり、山梨県外出身者のほとんどは大学近辺でひとり暮らし、あるいは学生寮で共同生活をしています。県内の自宅から通っている学生の中には車を持っている人もいます。そして、冬にはその車で近くのスキー場まで日帰りで行ったりします。甲府は車で「あっという間にゲレンデ」の距離にあるのです。

また、富士山、富士五湖、南アルプス、清里など、全国に知られた観光地が目と鼻の先にあり、時間を見つけて気軽に観光することができます。温泉好きの方、温泉好きのご家族がいる方には、温泉巡りもいいですよ。甲府市内にも湯村温泉や積翠寺温泉がありますし、少し足を伸ばせば、石和や下部、西山、河口湖等々、それぞれに個性的な温泉地が豊富にあります。さらに、山梨はブドウ、モモをはじめとした果物の産地としても知られています。友人の近親者に果樹園農家がいったりすると新鮮な果物のおこぼれにあずかることもあります。



写真1 筆者の研究室からの富士山

少人数教育です

さて、心理学を体系的に学ぶことができるのは、教育人間科学部の中にある、幼小発達教育コースとなります。このコースは、2012年4月の教育人間科学部改組に伴い誕生したコースです。じつは、前年度まであった幼児教育コースと発達教育コースを併合してできたコースで、卒業までに幼稚園教諭と小学校教諭の二つの免許を取得する必要があります。このコースは1学年20名定員ですが、担当する教員は教育学系6名、心理学系4名、合わせて10名です。つまり、学生2名に教員1名の割合ですので、専門科目のほとんどが少人数の授業ということになります。心理学系は、岡林春雄、酒井厚、塚越奈美（敬称略；以下同様）と筆者が担当しています。

教員免許を二つ取得するために、心理学を広く網羅的に学ぶという点では物足りなさが残るかもしれません。ですが、教育、発達、臨床、社会、性格、認知といった多様な心理学の卒業論文を書くための最低限の物理的環境およびカリキュラムは整備されていますし、少人数教育ですので教員たちも余裕をもって親身に指導してくれます。また、教育実習の経験は、一回りも二回りも若者を成長させるようで、教員の目から見てみてもずいぶんしっかりしたなあ、と思うことが多いですし、実

習をした学生自身も「教育実習によって大人になった」などと言っています。

その他、障害児教育コースに、小畑文也、鳥海順子、渡邊雅俊、そして芸術身体教育コースに木島章文の計4名の心理学者が在籍しています。

卒業後の進路については、改組前の実績から言っても教員が多くなると予想されますが、民間企業に勤める人もいますし、官公庁や大学院進学などをめざす人も少なくありません。

大学院修士課程では担当の心理学者が増えます

大学院修士課程で心理学を学べるのは、教育学研究科の教育支援科学専攻と教育実践創成専攻（教職大学院）になります。いずれの専攻にも山梨県教育委員会から派遣された現職教員をはじめ、社会人枠からの入学者が数多く在籍しており、大学卒業後すぐに進学する学生たちにとってはいい刺激となっているようです。

教育支援科学専攻には、上述の幼小発達教育コースと障害児教育コースの心理学者の他、教育実践センター所属の谷口明子も所属しています。また、教育実践創成専攻では進藤聡彦と東海林麗香の2名が心理学領域を担当しています。

大学院博士課程がお得感満載

2013年度より、医工学研究科

の博士課程、人間環境医工学専攻に、筆者が加わることになり、心理学系の研究でも博士号が取得できるようになります。取得できる学位は博士（医科学）ですし、心理学系のスタッフは充実しているとはいえません。しかし、他大学院にはあまり見られない魅力にあふれています。

まず、学内の奨励金制度が充実しており、有職者であっても、学費の約6割が免除され、有職者でなければ学費がほとんどかかりません（半期で5万円未満：実績ベース）。

さらに、本研究科には山梨県内外の現役の医師や看護師が多数在籍していることもあり、単位取得のための時間的縛りがゆるやかです。授業は特定の時期の夜の時間を利用して集中的に行ったりします。そして、2年目以降は実質的に研究だけに専念できます。山梨県外ですでに研究や実践のフィールドを持っている人にとっても、フィールドでの活動を継続しながら在籍できるという点で、とてもおすすめの環境といえます。

そして、おそらく重要なこととして、本専攻が医学系の研究者を中心に組織されているために、博士号は課程で取得するのが当然という風土があります。詳細について知りたい方は筆者宛にメールで気軽にお問い合わせください（omiyas@yamanashi.ac.jp）。



写真2 研究棟からの南アルプス



写真3 甲府駅からの道、武田通りの桜並木